

夢の舞台 4選手へエール

WORLD CUP 2026



チームのため走って 後藤選手兄

サッカー・ワールドカップ（W杯）北中米大会の日本代表に15日、県ゆかりの4選手が選ばれた。浜松市出身でジュビロ磐田で活躍した伊藤洋輝選手（27）は2大会連続の選出。同市出身の後藤啓介選手（20）、清水エスパルスで活躍した鈴木唯人選手（24）、ジュビロ磐田で活躍した小川航基選手（28）は、いずれも初めてW杯代表に選ばれた。

伊藤選手と後藤選手の選出に喜ぶ恩師ら（15日、浜松市中央区で）

「夢へのスタートライン。ワールドカップ優勝を叶えてほしい」。後藤選手の兄で、サッカー東海リーグ1部・岳南Fモスペリオに所属する佑介さん（23）はほっ



後藤選手の選出を喜ぶ佑介さん（15日、富士市で）

とした様子で激励した。後藤選手は、中学の時にジュビロ磐田の下部組織に所属し、高校生でトップチームに昇格した。卒業する年に海外チームに移籍し、今季からベルギー・シントトロイデンでプレー。昨年11月に日本代表に初選出され、今年3月のスコットランド戦で先発するなど、成長著しい選手だ。

佑介さんは「チームのために走って献身的なプレーをみせてほしい」と激励した。後藤選手の卒業校「第一学院高等学校 浜松キャンパス」（浜松市）で指導にあたった玉木英貴さん（49）は「他の生徒とも積極的に交流するフレンドリーな性格。憧れの舞台を楽しんで」と話した。

伊藤選手は、ジュビロ磐田の下部組織を経て、2017年にトップチームに合流。現在はドイツ名門のバイエルン・ミュンヘンでプレーする。伊藤選手が所属した浜松蒲サッカースポーツ少年団でコーチを務めた同市の会社員、栗田誠司さん（58）は「万全な状態でピッチに立ち、ロングシュートも放ってほしい」と期待した。

鈴木選手は、高校卒業後、20年に清水に入団。デンマーク1部ブレンビーなどを経て、昨年からはドイツ・フライブルクでプレーする。清水のユースコーチの兵働昭弘さん（44）は、「唯人のドリブル突破力や攻撃力、守備の献身性は高く評価されているので、攻守両面でハードワークする姿を見たい」と話した。



記者会見で代表選手にエールを送る藤田取締役（15日、磐田市で）

ジュビロ磐田の藤田俊哉取締役（54）は「ジュビロゆかりの3選手がW杯に臨むことは誇らしい。思いっきりプレーしてほしい」とエールを送った。